

加賀家文書歴史講座のお知らせ！

加賀家文書のほとんどを書き残し、アイヌ語通辞（通訳）として活躍した「加賀伝蔵の一生」を今年度制作中の絵本の読み聞かせによりわかりやすく解説します。

日 時 令和6年1月28日（日）

午前10時30分～11時30分

場 所 別海町郷土資料館

附属施設 加賀家文書館

内 容 ①「読み聞かせ・アイヌ語通辞（通訳）
加賀伝蔵物語」

②「加賀家文書館見学～展示解説～」

別海町郷土資料館 副館長 石渡 一人



ウィンタースクール「大昔のべつかい・勾玉づくり」のお知らせ！

日 時 令和6年1月11日（木）

①午前の部 10:00～12:00

②午後の部 13:30～15:30

内 容 ①お話 大昔のべつかい

②体験活動 勾玉づくり

対象者及び募集人員

午前・午後の部共に小学校以上 10名

（親子参加可）

申込期間 1月9日（火）～10日（水）電話かFAXにて

「お名前・電話番号」を連絡ください。

追加募集



出前移動展「メナシのアイヌとともに生きる」を開催しました。

ご覧いただき、誠にありがとうございました。



「メナシのアイヌとともに生きる～加賀伝蔵・松浦武四郎・南摩綱紀～」その5

加賀伝蔵、アイヌとともに畑作りを行う

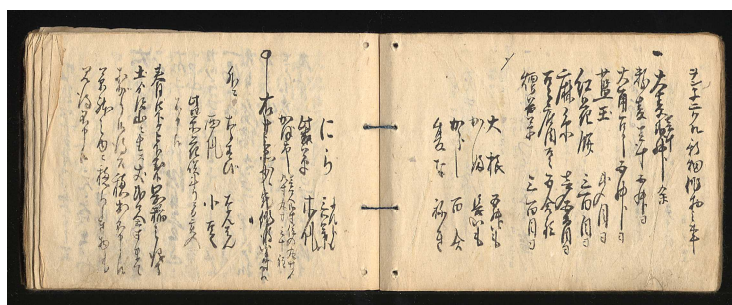
チャシコツ(標津町茶志骨)に名を茶右衛門と改めたアイヌがいました。野付通行屋で働いていた伝蔵に、この地に畑を開いてはどうかと勧めました。

茶右衛門の勧めに伝蔵は、手始めに野付通行屋の背後に畑を開きました。様々な種子を取り寄せ茶右衛門をはじめとするアイヌたちと畑を開墾し穀物や野菜などを栽培しました。

松浦武四郎は、伝蔵に畑作りを勧め、ともに畑作りを行った茶右衛門のことを『近世蝦夷人物誌』に「農夫茶右衛門」として紹介しています。和人とアイヌがともに手を取り合い蝦夷地を開拓した事実には武四郎は、大きく感銘を受け記録に残したものと思われます。この畑の跡は、現在でも野付通行屋跡遺跡内に残っています。



『近世蝦夷人物誌』「農夫茶右衛門之図」松浦武四郎
(松浦武四郎記念館)



「加賀屋氏大宝恵[覚帳]ラン子ニクル新畑作物之事」

畑で栽培した作物が記載されています。



野付通行屋跡遺跡段丘部畑畝跡

現在も残る畑の跡



「大小ニクル穂山之図」(野付半島内にどの程度畑を作ることが出来るか加賀伝蔵が記録した図)

別海町郷土資料館だより No.294

発行日 令和6年1月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編集後記

2023 年も終わり、令和になって6年目を迎えます。昨年5月よりコロナウィルスの規制も緩和され、コロナ禍前の状態が戻りつつあります。昨年は、記録的猛暑で別海も暑い日が続きました。令和に入り色々なことが起こっているようです。今年は、何があるのでしょうか。